

二  
1316  
4止



鵲齋杉田先生六十壽序

水積則成淵土積則成山學積則德成矣  
蓋有德之人能受多福焉吾鵲齋先生之  
爲方術也明察五內妙探病原一七之所  
施三折之所成起死回生不知幾千請治  
之人日夜接踵受業之客遠邇通謁今也  
年值耳順健康矍鑠矣是謂能受多福豈  
不天之祐有德乎抑亦積學之所致也先

生嘗謂茂質等曰我醫之術上古邈矣姑置焉雖則有素靈之書命以聖人之作然其所譏述率六氣旺相之論五行分配之說高尚其事以飾以矜蓋戰國秦漢之僞撰而牽合附會不充實用魏晉以至宋元數百載之間宗奉不措蛙譟雷同遂無歸一之說我邦之醫流上古有大巳少彥之二尊今失其傳亦唯範圍素靈日淦月

錮慣習成俗無一人知其非者迨世後藤艮山氏傑然獨立首駁衆說大除舊弊習風改觀吾醫一新可謂豪傑之士也已次之其嗣椿菴弟子香川修菴及山脇東洋之諸子亦各有見解大補助其業於是乎吾醫之術無以愧於古然而立言之初無所適從唯知彼僞而未知此是取諸胸臆務立新說雖一二可據遂失歸途嗚呼數

子而猶且如此他則不足論也方今 國  
家昇平殆二百年德化之所蒸餘澤之攸  
及異邦殊域貢獻不絕文教誕闡於是乎  
和蘭之學亦萌然而興矣吾嘗聞之矣彼  
邦之人天性知巧且通商於四方也衆方  
之美無所不取究物理之奧致極實際之  
至願以故精於諸術甲於天下而天文醫  
藥爲其最焉因講究其內景書以解剖刑

屍檢照其圖無一有差謬雖未能讀其說  
而直知漢人所說大謬惑乃悻然發憤矚  
然改觀刻意斯學銳志翻譯既而聞蘭化  
先生嘗學崎陽能通其事乃往受其教傍  
與同志相研究稍稍得讀其邦書始知其  
治術之要在知人身內景之諸官能夫爲  
方者不知臟腑經絡肢竅關節之妙用機  
會則焉能知痰疾之所在乎此精究之所

以先務也。因不自揣與一二同志討論尋  
繹以成一部內景新譯之書。試諸事物左  
右取之。必逢其原矣。夫斯業之至於此也。  
實藉天之寵靈。而遭斯學將闡之秋也。豈  
不一大盛事哉。然是唯創業於始而已。若  
夫成功於終者。則吾老矣。吾子之徒其勉  
之哉。蓋先生年紀既高。猶且不廢筆硯。諄  
諄乎誘子弟欲斯學之大成。其篤好雖出

天性其親切於吾醫亦厚哉。而今而後天  
下知斯學之有益於人。先生而不學焉。能  
如此則吾輩亦與有榮哉。夫父有志則子  
繼之。師有志則弟子成之。敢不受命。然而  
集成之難。非不敏之所及行。將與士業戮  
力竭心勉勵有年。庶乎不墜其緒焉。士業  
先生之令嗣也。今茲十一月士業請設壽  
筵。而蘭化先生亦適七十也。邀而饗之。  
茂

蘭學會盟引  
實等二三子作文奉壽遂表章二先生首  
唱斯學於吾東方之由者則祝二先生  
之壽與斯學長久也夫斯學於吾醫術也  
實七神五祇以降未曾有則亦有大功於  
吾東方而天下賴其恩賚者誰不欲令  
吾二先生綏其介福者然則二先生雖不  
欲壽得乎是爲壽序寬政四年壬子十一  
月二日

蘭學會盟引

惟寬政甲寅閏十一月甲子及西學翻譯  
社友會于芝蘭堂何爲用是日乃大西洋  
一千七百九十四年正月上日也何用其  
上日今讀其書肄其業於其穀且者祝斯  
業之大成也夫物之有偏長雖聖人有不  
及焉故仲尼問禮老聃學樂師襄豈唯人  
也哉管仲師馬隰朋師蟻苟道之所存莫

非吾師夫吾醫之道炎黃以降能者輩出  
草討脩潤蓋無餘蘊矣雖然邈哉遠乎吾  
奚以論其世乎其載諸簡蓋在蒼姬之末  
時則終始五德施亂我道古者稱萬物今  
也五其數牽強傳會淄澠合流薰蕕同器  
論包宇宙失在眉睫豈可盡信其書哉自  
此厥後非無僑傑多禁其方後死莫述獨  
有長沙氏立言而不朽然唯舉其綱未張

其目尋及後世載籍極博唯是繁而寡要  
語而不詳非鹵莽則鑿空嘻予將疇依吾  
每思之忘寢忘食幸遇先覺得聞斯業其  
爲術也近取諸身遠取諸物施諸治療則  
親切著明豈古今方技家之所企及哉夫  
西方之人其性機巧上自天文曆數下至  
凡百技藝精工縝密幾奪天工唐都落下  
籍曰千古魯般工倕擺指九原日月所照

孰出其右豈風土之使然邪抑何妙也則  
獨奚於我醫而疑之哉愚者所笑賢者察  
焉吾與諸君雖欲不師之得乎嗚乎無怠  
無荒解其孚甲成其華實孜孜無已者其  
從今日始

右二篇之文得諸磐水漫草也蓋論斯  
學所由起未有若是詳而盡者故附錄  
以公同志云安政乙卯之春越村

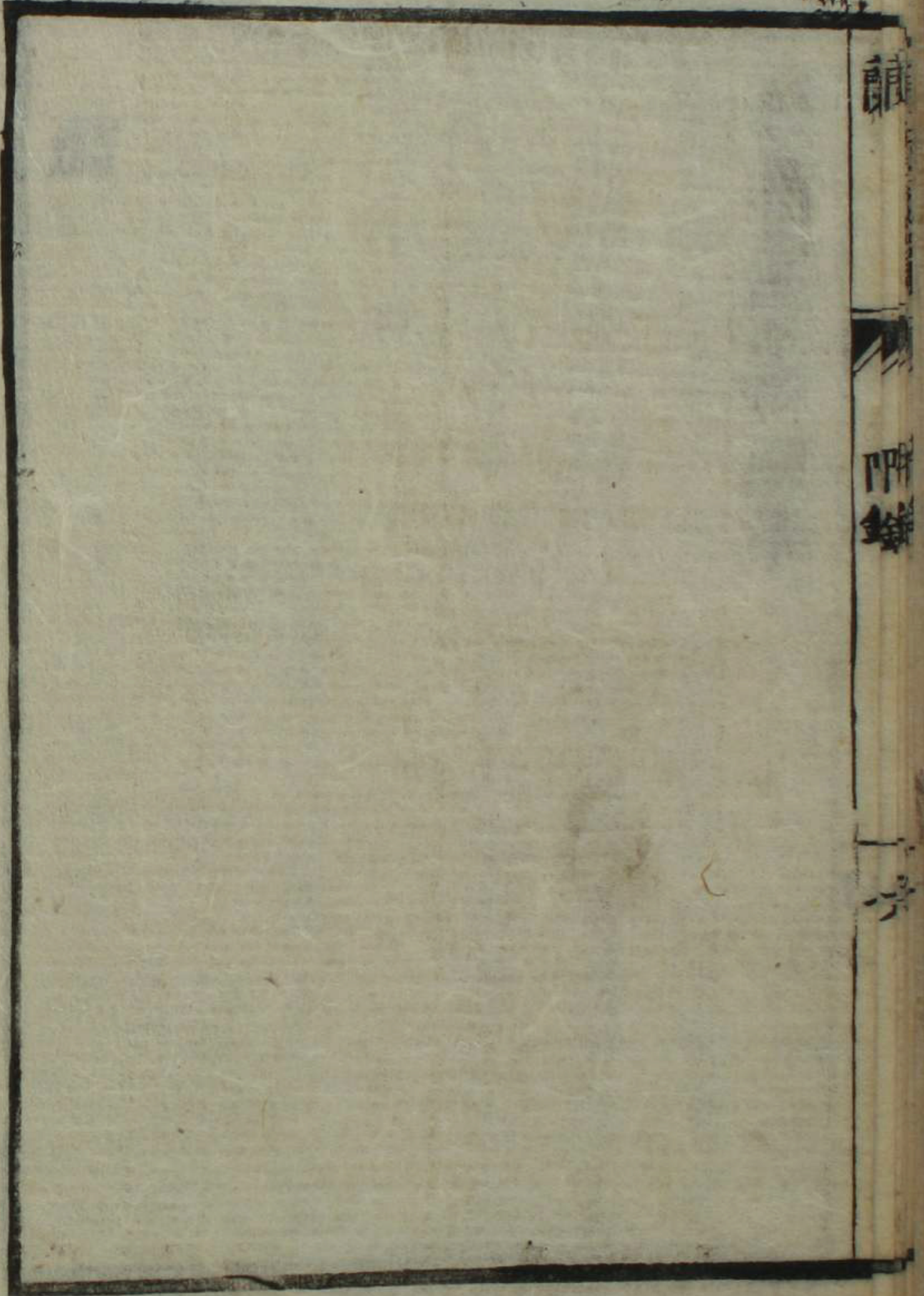
深藏



識

蘭國通覽附錄畢





蘭國通覽 終おる志る也

昭代の運八蠻来聘し四夷化し帰して

貢くとと後之のたから百家終ふみ

あけさう世へ法らるる處からんそり

中みも阿蘭陀飛と終るままた家

をきくのとる由りゆらうは六

大洲を里ありつるものにしとを

名称主用未とくくあをらめ法々し  
 めたぐ形人々程ハ古ハと里其名  
 其用未あおら梨法々々もこの海ハ  
 走々あからま近ハ後阿蘭陀學子に  
 こまて漢藉梵文蘭篆

皇國尔全備してとお海々々安免れ者  
 の六とこのハさるハあしこに我

鷗齋杉田先生蘭藉翻譯の大業  
 を草創しあひしと里々々し乃  
 みちハさるめもいんにねをそあ免  
 然者ハの國といふ國の方位う法  
 たるものハ名称主用尔ハたるまて直  
 尔蘭藉にきしとたかあハ法々  
 さいりたるとよあ人好まめる且

蘭  
先生純孝子磐水大槻君いよく飛  
るく見安きうりお志のまあひを十  
の業を成立しあさんと純孝の故  
をいふとふあしゆ急おこのまを  
海あふともあう君乃門子いそをか  
子いあふそりふり丹波國有馬文仲  
といふもの世ふいひもくも物に数條

を君ふとひ正して筆録しき蘭  
國通覽と題せらふその稿保とく  
あふよいあふを身まあ孝ぬるさう  
いあふらあふしあふこのゆ急に君  
の門生さあふさしあふ流記を上木の未  
とあふはあふあふさし君よいさし  
あふも君かあふさあふさあふあふ

蘭  
あはれん瑣々たふ小言と二三子の一  
時徒問ふ多めへあはれせ家のものも好ま  
豈世子公みしと識者徒らじを未  
神くへんおのあはれん世もあはれこと好  
あれとのあはれしも梨門生おるれを  
たをひしうあはれし君の人とあり  
ハ一時の雑話といふとも實にまじり

いじろた寸たし紀をへるあはれハ  
表めし徒はん大の書徒こと紀小冊子  
といへとも西洋の群書おじろくた  
しと多めへあはれしあはれか實録か  
孝和漢古今の書徒中お辨明しあ  
たきものあはれハ世の人あはれし珍と  
しと傳寫しとあはれしこと十數

年美久羅昔日君をとりぬ  
先生の門にあるをひしころ君り西洋の  
ものうたをよかぬりよて彙録しそ  
よきあねたきるも乃安孝いよる名  
く蘭話詰問強一助とふやんととねもふ  
こと久しきるぬ一日この書をと君の門  
人ふりり文仲り六の記におのり筆記

せるものよろふまはまをふたと萬々  
きれと流まじくぬ馬し流たへく魯魚  
鳥馬のあやまをきくかからしよま文仲  
りあねたきるも乃安孝いよる名  
上木のこと試君ふらよとよまへ前言の  
かどくあるへく強ハやむとよよるひしを  
いみしころ彙録せると二流の筆記

とうまゝに終校讎しく友人肅夫りふを  
 子勞しく新の圖を製していえり  
 家刻をみれば君の素志を捉むくうおと  
 くおれとも謄寫たひうををりていよ  
 くあやまるとも後よはるゝんぬまぬ  
 流るしもし佗日君の一覽をて経ハおの  
 せいとて罪とてうけんのととみはあら

ゆゑしぬ時よ寛政の十とせとつふとし  
 の中冬望の日尊あけ乃あはれ津越  
 村義久羅幽蘭齋よ志ふん

陸奧仙臺侍殿西磐水大槻玄澤先生口授

門人 丹波福智山醫官有馬文仲元晃筆記

伊勢洞津圖南越村深藏子虛父校正

# 幽蘭齋藏板

十  
卷  
一  
卷

陸與仙其家世居西第水大觀太公澤先成後

門人丹天與仙皆名書有為文仲元是筆記

有為文仲元是筆記

陸與仙其家世居西第水大觀太公澤先成後

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



